



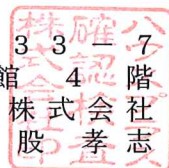
HOUSE PLUS

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
平成26年12月17日

受付日：平成26年10月9日
受付番号：HP14-KT140

接合部性能試験成績証

東京都港区芝5-33-7
徳栄ビル本館4階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 川 股 孝 志



1. 接合金物名称	TB-244
2. 試験依頼者	株式会社 タナカ 〒300-4111 茨城県土浦市大畑702-1
3. 目的	① 枠組壁工法建築物の接合部の「基準許容応力」及び「基準終局耐力」を試験により評価する。 ② 「基準許容応力」から「降伏耐力」を算出し、「基準終局耐力」との比較結果より、「短期許容耐力」を確認する。
4. 試験内容	たて枠と土台接合部の引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は2007年枠組壁工法建築物構造計算指針による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「TB-244」 材 質：NSDC570:ZQNK18*1 寸 法：30mm×244mm 板厚t=0.6mm 接合具用孔 6-φ3.6mm</p> <p>2) 接合具</p> <p>たて枠側：「太めくぎ ZN-65」3本 材 質：SWM-N(JIS G 3532) 寸 法：φ3.33mm, L=63.5mm 表面処理：HDZA(JIS H 8641)</p> <p>土台側：「太めくぎ ZN-65」3本 材 質：SWM-N(JIS G 3532) 寸 法：φ3.33mm, L=63.5mm 表面処理：HDZA(JIS H 8641)</p> <p>3) 枠組材料</p> <p>たて枠：38mm×89mm×700mm S-P-F 204材 甲種2級 2本 含水率：8.5～12.5% 全乾密度：0.43～0.55g/cm³</p> <p>下枠：38mm×89mm×700mm S-P-F 204材 甲種2級 含水率：8.0～9.0% 全乾密度：0.42～0.45g/cm³</p> <p>床合板：89mm×700mm 厚さ28mm 構造用合板 JAS特類2級 含水率：12.0～13.5% 全乾密度：0.42～0.46g/cm³</p> <p>土台：89mm×89mm×1000mm ベイツガ 404材*2 含水率：10.5～12.0% 全乾密度：0.48～0.50g/cm³</p> <p>壁合板(右)：369mm×766mm 厚さ11mm OSBパネル JAS3級 含水率：6.0～7.0% 全乾密度：0.61～0.66g/cm³</p> <p>壁合板(左)：331mm×766mm 厚さ11mm OSBパネル JAS3級 含水率：6.0～6.5% 全乾密度：0.64～0.67g/cm³</p> <p>壁合板(下)：89mm×700mm 厚さ11mm OSBパネル JAS3級 含水率：7.0～7.5% 全乾密度：0.10～1.08g/cm³</p> <p>4) その他</p> <p>枠組材同士の接合：報告書図2.1の通り</p> <p>*1 新日鐵住金製 *2 基準強度$F_c=19.2$ $F_t=14.7$ $F_b=25.2$ $F_s=2.1$(N/mm²)の木材を用いた。</p>
6. 試験条件等	試験体は実状に合わせ、たて枠と土台を、合板を介して当該接合金物により接合した。 試験での土台は、実際に適用する木材の中で、もっとも基準強度が低いものを用いた。 試験は、実際に適用する壁合板の厚さ9mm～11mmの中で、接合具の埋め込み長さが最小となる仕様で行った。
7. 試験結果	基準許容応力 4.55 kN、基準終局耐力 11.96 kN、短期許容耐力 6.82 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜試験研究センター：神奈川県横浜市鶴見区元宮1-12-24
9. 試験実施日	平成26年10月15日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 千葉 博 加川 啓介 土屋 江利佳

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。